

次期学園長に住田昌治氏を選任

湘南学園理事会

山田現学園長の任期が、2022年3月末日をもって終了することから、理事会では次期学園長（2022年度から2023年度）の選任を進めてまいりましたが、11月5日開催の臨時理事会において、次期学園長に住田昌治氏を選任致しましたのでご報告致します。

選任にあたり、学園長候補者を学内教員及び学外の教育に造詣の深い方から同時に求めましたが、一名の候補者の推薦を規定数の学内教員の方から頂きました。理事会の場では、学園長候補者より今後の方針や抱負等に関するプレゼンテーションを頂くとともに、質疑応答等により候補者の考え方を理解した上で、住田昌治氏の選任を決定致しました。

湘南学園は、これからの来るべき100周年に向け、住田学園長を中心に様々な課題を乗り越え、建学の精神と培われた伝統を堅持しつつ、更なる発展を目指してまいります。

皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



四十年近くに渡って湘南学園に勤められ、学園の発展にご尽力されてきた山田明彦学園長の後任として学園長に選任されました住田昌治と申します。

建学の根底にある「わたしたちの学校を創る」という設立当時の方々の思いを常に意識すると共に、これまでPとTで共同経営されてきた体制を尊重し、長年に渡って培われてきた学園経営に学びながら、湘南学園のさらなる発展に寄与できるように、微力ではありますが持てる力を発揮するよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

学園長就任にあたって

次期学園長 住田昌治

1 自己紹介

玉川大学卒業後、横浜市内に採用され、その後横浜市内の小学校に勤めること七校四十二年、そのうち十二年間を二校の校長として務めました。

教員としては、子どもが主人公になる授業づくり、学習の総合化、子どもが自立する学級づくりなどに取り組みました。また、体育主任を長く務め、運動会や球技大会等、ボール運動の研究にも力を入れていました。四校目は「総合的な学習の時間」の研究校で、研究主任や研究推進委員長を務めました。

三年間の副校長時には、環境教育、保護者や地域、

外部連携を進め、ESDと出合ったことで、一気に教育活動のつながりと広がりを意識するようになりました。

校長になってすぐに、ユネスコスクールに加盟し、ESDを核とした学校づくりを始めました。

2013年には、「神奈川県ユネスコスクール連絡協議会」を結成し、セミナーや県大会を開催し、県内のユネスコスクールの情報交換、活動紹介、研究、開発を進めてきました。私は設立以来協議会の会長として、ボトムアップで進める協議会のビジョンを示してきました。現在では、神奈川県ユネスコスクールネットワークは、現場から立ち上げた





ネットワークとして全国のモデルとなっています。

湘南学園でも2017年に県大会を開催していただきました。その時に昼食をいただいたカフェテリアは強く記憶に残っていました。今年度のユネスコスクール関東ブロック大会で、加盟校である学園中高からカフェテリアと食育実践について報告していただいたことも心に残っています。

主な著書

「カラフルな学校づくり」
(学文社)
「任せるマネジメント」
(学陽書房) 他

2 教育運営の方針

「わたしたち」が主語の学園・教育・生活を創る
①「わたしたちの学園」
湘南学園の最大のメリットは、幼小中高が同じ敷地内にある総合学園だということです。建学の精神に基づいた教育実践が為され、八十八年の長い歴史の中で、

不易と流行に照らし合わせて学びをアップデートし、今日の学園を築いて来られたのだと思います。

そこには、多くの学校関係者、園児・児童・生徒、外部の協力者の方々の思いと願いが込められた日々の営みがあり、その延長線上に今があり、そして未来があります。また、それぞれの時代に特色があり、それぞれの色を輝かせてこられたのだと思います。その輝きにさらに磨きをかけるためにできることを考えて、実践していくことが私の使命と捉えています。

丁寧な対話と質の高いコミュニケーションを通して当事者意識を高め、湘南学園をわたしたちで創るという意思を表していきたいと思っています。
②「わたしたちの学び」
・湘南学園としてユネスコスクールに加盟
・湘南学園全体でESDを推進「学園のどこを切ってもESD」
・自ら考え、主体的に行動

し、責任をもって社会変革を実現する力を育む学び・夢中になる学び・子どもを主語にした学び

③「わたしたちの生活」
(1) 湘南学園×SDGs
・毎日の全てを学びに
・私たちの日々の営みの目標に
(2) 持続可能な未来
・カフェテリアと食育
・日常を見直す自覚から
(3) 持続可能な社会は持続可能な教職員の働き方から

3 ケアで育み、学校を元気にするESD

湘南学園の設立以来、育まれてきた類まれな独自の文化や校風は、互いのケアの溢れる教育実践の賜物だと推察します。ESDの本質ともいえる「ケア」がすでに内在化されている湘南学園の教育のあり方は、これからの教育をリードする力を持しているのではないのでしょうか。持続可能な社

会は、「個性豊かにして身体健全、気品高く、社会の進歩に貢献できる明朗有為な実力のある人間の育成」によって成し遂げられると言っても過言ではありません。学園全体におけるESDの深化・浸透を推進し、学園自体の持続可能性をも確実にものにしていけるように力を注ぎたいと思います。

学園での取組によって、子どもが地域や社会を変えていくとする当事者となっていく姿を見ることが、持続可能な未来を描くうえでも明るい希望となることでしょう。

学園全体が持続可能になっていくためには、今問題視されている教職員の働き方もESDの重要なテーマになります。「元気な学校は、元気な教職員から」です。

4 学園全体の持続可能な発展をめざして

創立九十周年に向けて、全学的な相互理解と協働体制を改めて強める必要があ

ると考えます。学園生のために関係者一同が対話を惜しまず協働していくことが湘南学園の独自性だと思います。次の周年行事や新基金の運用、食育の展開などをめぐり、配慮ある率直な意見交換や交流を進め、持続可能な学園運営のための協力関係を深めることができればと願います。

湘南学園は、独自の建学の精神のもとで、教職員と保護者が連携して手づくりの教育と運営を進めてきた幼小中高の男女一貫校です。全く独自の「共同体」が形成され、八十八年も存続し、様々な危機に直面しても乗り越えられてこられました。

明るく活気ある学園の風土は誰もが共有できる宝であり、卓越した建学の精神と立地に恵まれた学園は、未来への独自の希望を実現できると信じています。総合学園として、学園関係者の連携をより一層進め、強靱な学園経営に取り組んでまいりたいと存じます。どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。

